

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策I-6-3 空港・港湾の維持・整備
---------	---------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	港湾空港課長 奥村 恭	電話番号	0852-22-5228
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	境港管理事業		
目的	(1) 対象	境港の利用者	
	(2) 意図	利用者ニーズを的確に把握し、港湾施設管理の向上を行い、取り扱い貨物量を伸張させる。	
事業概要	中海・宍道湖・大山圏域の産業振興、観光振興を図るため、共同管理者である鳥取県と連携し、施設整備、ポートセールス等を行う。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	年間取扱貨物量	390.90	363.40	364.80	
	達成率		80.80	81.10	80.30		%	
指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			0.00	0.00	0.00			
	達成率		0.00	0.00			%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	525,994	508,758
うち一般財源(千円)	517,244	505,727

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

境港の全体貨物量については、361.2万トンであり、前年比99.0%とほぼ前年並みとなっている。外貨については、輸出は減少したが輸入は微増であったため、取扱量は前年並みとなっている。内貨については、移出が微増で、移入が微減となり、取扱量は前年並みとなっている。コンテナ取扱貨物量については、前年と比べ微減となっており、輸出が増加し輸入が減少している。輸出については、紙・パルプ、電気機械、自動車部品の取扱いが増加している。輸入については、再利用資材、電気機械、製造食品などの取扱いが減少し、鉄鋼、輸送用容器、その他農産物の取扱いが増加している。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

平成20年9月のリーマンショックに端を発した世界同時不況の影響により落ち込んだ取扱貨物量は徐々に回復してきている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

山陰地域は、国内海上輸送ネットワークのミッシングリンクとなっている。国内物流と国際物流の連携に乏しい。

②困っている状況が発生している「原因」

境港発着の国内定期航路がないこと。

③原因を解消するための「課題」

中国地方と北海道、北陸及び関東の物流促進及び効率化を目的とし、国内RORO船定期化に向けた試験輸送を実施しているが、航路の認知度向上、試験運行する船舶確保、輸送用車両確保、国内物流拠点形成、多様な輸送ニーズに応じたサービス提供等が不足している。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

これまで、港湾管理者、民間等で個々の取り組みを行っていたが、物流環境の改善に向け産官学連携することにより、日本海側の物流・商流を確立し、圏域の競争力を強化し、圏域の経済競争力を強化する。境港流通プラットフォーム協議会を設置する。（H27. 7. 11）

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）